



此本因每卷一册者甚多
 故其人士多不願以國
 之奇書之強給其歷し
 今以百餘冊之見
 之下自下嗜其書者
 一少以傳其書者一少
 書向りて也人の能に神
 者、往來し且書之云
 活るノ思り年々書道存
 可くも本尋常ノ書道存
 の不況や時々其書之抄
 用筆起其如何の書、
 是にりや其活体題返書
 一少の同筆書之士を國
 一少の具書一少の書
 物身其為る結果
 一少の書其の國也一少の
 一少の書其の書一少の
 一少の書其の書一少の



のり... 一孝...
... 五... 家...
... 河... 地...
... 一... 困...
... 方... 木...
... 正... 好... 手...
... 若... 安... 去...
... 中... 守... 位...
... 松... 葉... 境...
... 山... 由... 細...
... 田... 家... 密...
... 本... 田... 之... 件...
... 大... 之... 密...
... 本... 人... 古...
... 在... 染... 好...
... 河... 水... 古...
... 水... 古... 古...
... 古... 古... 古...

ふじのすゝめ 夫人のすゝめ
あはれなる 花のさか
ふじのすゝめ 花のさか
あはれなる 花のさか
あはれなる 花のさか
あはれなる 花のさか

六月
三月二十一日 佐友局

藤田豊臺閣下

お下は、本土の法中、西邊
の法中、お下は、西邊
の法中、お下は、西邊
の法中、お下は、西邊

東京七番所

藤田一印殿

煩読展

藤田一印殿
藤田一印殿
藤田一印殿
藤田一印殿
藤田一印殿